

第3回ひょうご地域DX推進検討会議事録

日時等	2026年3月3日(火)13:30～14:30 オンライン会議
参加者数	県内市町・県関係部局より計50名（講演者・事務局を除く。）
アジェンダ	
13:30～14:15	「市町DX支援パッケージに係る令和7年度の取組の振り返りと令和8年度 の取組について」の説明
14:15～14:30	意見交換

市町DX支援パッケージに係る説明
1. 市町DX支援パッケージの振り返りと今後の取組 (1)市町ヒアリング結果 <ul style="list-style-type: none">● 昨年から各市町のヒアリングをさせていただき、その結果を踏まえて取組の方向性を整理している。● 全体の支援として、市町間の事例・情報共有の機会確保に係るご意見を踏まえ、情報共有を支援し、市町間の連携を推進する方向性としている。次に共同調達推進に係るご意見を踏まえ、引き続き共同調達の取組を進めることとしている。また、現在の相談体制の継続に係るご意見を踏まえ、引き続きリエゾンを設置する予定としている。● 業務系の支援として、生成AIに係る研修や情報提供、kintone活用に係るご意見を踏まえ、それぞれ支援を進めていく予定である。● 人的支援について、小規模市町を中心としたデジタル専門人材支援に係るご意見を踏まえ、小規模団体を中心として支援を行う方向である。 (2)令和8年度取組の重点事項 <ul style="list-style-type: none">① 重点事項：生成AIの活用支援 急速に進化する生成AIの最新動向の提供や職員研修を望む声を多くいただいたことを踏まえ、令和8年度では「AIを活用した行政DX加速化会議」の内容や議論について市町へ情報共有、意見交換等を実施する予定であるほか、県内外の自治体の先進事例紹介や、各市町の実情に応じた職員向け生成AIハンズオン研修の実施などを検討している。② 重点事項：共同利用の促進 主に地域社会DXを中心とした地域通貨、地域ポータルとスーパーアプリ、デジタル認証基盤や請求電子化などの共同利用支援を行うほか、市町が主体となったシステムの共同利用・ライセンス等の共同調達に係る検討会の開催等を予定している。

意見交換
[質問1] 校務には地域毎に特色ある独自の施策があるが、標準化が可能か、もしくは市町によるカスタマイズを認める方向性なのか。また、維持費は市町負担となるが、共同調達により負担は増加するか減少する見込みか。

[回答]

地域ごとの事務フローの違いを踏まえ、標準化とカスタマイズの両面で検討する。

費用負担は現時点で未確定だが、国庫補助が適用される初期費用の構成を工夫するなど、市町の維持費負担軽減を目指す。

また、ゼロトラスト環境については、既存環境やコスト面を考慮しつつ、標準化の範囲や採用基盤を今後検討する。

[質問2]

共同利用支援の対象としているサービスについて「地域通貨・ポイント」「スーパーアプリ・デジタル認証基盤」が項目として分かれているが、検討の場は独立する見込みか。

[回答]

検討の場は同じにする予定である。地域通貨・ポイントサービス単体では普及促進に課題があり、スーパーアプリと分けて検討することも困難なため一体で取り組む予定である。フロントエンドサービスは既に導入している市町が多く、複数プラットフォームとの接続を検討したい。